

# 容器から容器へ、宅食容器の「ワタミリサイクルモデル」

SDGsタスクフォース「容器回収リサイクルプロジェクトチーム」の発案により、お届けした「ワタミの宅食」のお弁当プラスチック容器を回収し、リサイクル資源として再びお弁当容器の原料にする「容器回収リサイクルループ」を完成させました。このリサイクルシステムは、業界初の取り組みです。この取り組みにより、従来よりも輸送や洗浄からのCO<sub>2</sub>排出を抑制し、さらに使用済み容器回収により海洋プラスチック汚染を予防します。



### 環境省プラスチック戦略

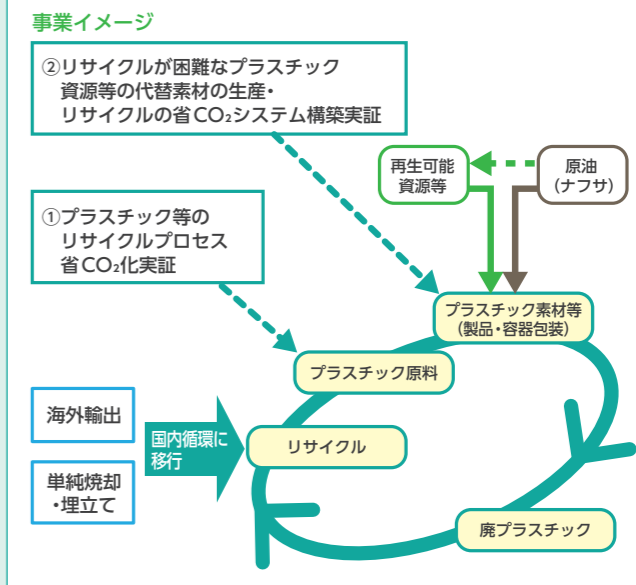
多くの容器包装の材料にプラスチックが使われています。プラスチックは軽くて丈夫で水にも強く便利な素材です。でも使用済プラスチック容器包装は、リサイクルの有効性が低く、海洋プラスチックなどによる環境汚染が問題になっています。日本は世界で2番目に1人当たりのプラスチック廃棄量が多く、国内で適正処理、3R推進が課題です。

◆プラスチック戦略マイルストーン  
世界全体の資源・環境問題を解決し、持続可能な発展に貢献することが目的です。  
自治体とメーカーや小売、消費者、リサイクラーの協力でマイルストーンの達成を目指すことで、必要な投資やイノベーション（技術・消費者のライフスタイル）を促進します。

- リデュース**  
①2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制
- リユース・リサイクル**  
②2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに  
③2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル  
④2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効利用
- 再生利用・バイオマスプラスチック**  
⑤2030年までに再生利用を倍増  
⑥2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入

## 脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業

ワタミは2019年度「プラスチック等のリサイクルプロセス構築・省CO<sub>2</sub>化に係る技術実証事業」に採択されました。



### ◆なぜケミカルリサイクルなのか

プラスチック容器のリサイクルには、そのまま熱で加工するマテリアルリサイクルや、燃料として使う熱回収などもありますが、弁当容器をリサイクルして再び弁当容器にするケミカルリサイクルが、ワタミの容器リサイクルには最適だと選択しました。

コークス 20%	鉄鋼製品	コークス炉ガス 40%	電力
炭化水素油 40%	プラスチックに再生		

### ◆リサイクル実施地域の拡大

2019年5月に愛知県名古屋市から始めた、容器回収リサイクルループを、全国に拡大するために、各自治体の理解を得ながら地域ごとに進めています。

関西地方	2020年7月スタート	東北・関東地方	2021年3月スタート予定
中国四国地方	2020年1月スタート		
九州地方	2020年11月スタート予定	東海北陸地方	2019年5月スタート